

※※印：2019年7月改訂(第16版)  
 ※印：2019年1月改訂

日本標準商品分類番号
872459

貯 法：しゃ光・気密容器保存  
 使用期限：外装に表示の使用期限内に使用すること。  
 規制区分：処方箋医薬品  
 (注意－医師等の処方箋により使用すること)

承認番号	22100AMX01087000
薬価収載	2009年 9月
販売開始	1996年 7月
再評価結果 (品質再評価)	2003年11月

副腎皮質ホルモン配合剤

**プレデズミン®** 配合錠

PURADESMIN

ベタメタゾン・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩配合錠




【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1) 適応、症状を考慮し、他の治療法によって十分に治療効果が期待できる場合には、本剤を投与しないこと。また、局所的投与で十分な場合には局所療法を行うこと。
- (2) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- ※※ (3) 閉塞隅角緑内障の患者 [抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある]
- (4) 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者 [抗コリン作用により排尿困難、尿閉等があらわれ、症状が増悪することがある]
- ※※ (5) デスマプレシン酢酸塩水和物(男性における夜間多尿による夜間頻尿)を投与中の患者 (【相互作用】の項参照)

【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】

- ※※ (1) 開放隅角緑内障の患者 [眼圧の亢進により、緑内障が増悪することがある]
- (2) 有効な抗菌剤の存在しない感染症、全身の真菌症の患者 [免疫機能抑制作用により、感染症が増悪することがある]
- (3) 結核性疾患の患者 [免疫機能抑制作用により、結核性疾患が増悪することがある]
- (4) 消化性潰瘍の患者 [胃酸分泌の亢進、肉芽組織増殖抑制作用により、潰瘍が増悪又は治癒が遅れることがある]
- (5) 精神病の患者 [中枢神経系に影響し、精神病が増悪することがある]
- (6) 単純疱疹性角膜炎の患者 [免疫機能抑制作用により、単純疱疹性角膜炎が増悪することがある]
- (7) 後嚢白内障の患者 [水晶体線維に影響し、後嚢白内障が増悪することがある]
- (8) 高血圧症の患者 [水及び電解質代謝作用により、高血圧症が増悪することがある]
- (9) 電解質異常のある患者 [電解質代謝作用により、電解質異常が増悪することがある]
- (10) 血栓症の患者 [血液凝固促進作用により、血栓症が増悪することがある]
- (11) 最近行った内臓の手術創のある患者 [創傷治癒(組織修復)が障害されることがある]
- (12) 急性心筋梗塞を起こした患者 [副腎皮質ホルモン剤で心破裂を起こしたとの報告がある]

【組成・性状】

組 成	1錠中：ベタメタゾン ……………0.25mg d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 ……………2mg		
	〈添加物〉 ステアリン酸マグネシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース		
性 状	白色の素錠		
識別コード (PTP)	t BC		
外 形 (サイズ)	表(直径mm)	裏(重量mg)	側面(厚さmm)
	 8.0	 190	 3.6

【効能・効果】

蕁麻疹(慢性例を除く)、湿疹・皮膚炎群の急性期及び急性増悪期、薬疹、アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

通常、成人には1回1～2錠を1日1～4回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、本剤を漫然と使用すべきではない。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

本剤は副腎皮質ホルモンをプレドニゾン換算で、1錠中2.5mg相当量を含有するので、症状改善後は漫然として使用することのないよう注意する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 感染症の患者 [免疫機能抑制作用により、感染症が増悪するおそれがある]
- (2) 糖尿病の患者 [糖新生成促進作用(血糖値上昇)等により、糖尿病が増悪するおそれがある]
- (3) 骨粗鬆症の患者 [骨形成の抑制、骨からのカルシウム排泄の増加により、骨粗鬆症が増悪するおそれがある]
- (4) 腎不全の患者 [薬物の排泄が遅延するため、体内蓄積により副作用があらわれるおそれがある]
- (5) 甲状腺機能低下のある患者 [副腎皮質ホルモン剤の血中からの半減時間が長くなるとの報告があり、副作用があらわれるおそれがある]
- (6) 肝硬変の患者 [代謝酵素の活性低下等により、副作用があらわれるおそれがある]
- (7) 脂肪肝の患者 [脂肪分解・再分布作用により、肝臓への脂肪沈着を増大させ、脂肪肝が増悪するおそれがある]
- (8) 脂肪塞栓症の患者 [副腎皮質ホルモン剤の大量投与により、脂肪塞栓症が起こるとの報告があり、症状が増悪するおそれがある]
- (9) 重症筋無力症の患者 [蛋白異化作用により、使用当初、一時症状が増悪するおそれがある]
- (10) 高齢者 (【高齢者への投与】の項参照)

2. 重要な基本的注意

- (1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には**自動車の運転等危険を伴う機械の操作**には従事させないよう十分注意すること。
- (2) 本剤の投与により、**誘発感染症、続発性副腎皮質機能不全、消化性潰瘍、糖尿病、精神障害等**の重篤な副作用があらわれることがあるので、本剤の投与にあたっては次の注意が必要である。特に、本剤投与中に水痘又は麻疹に感染すると、致命的な経過をたどることがあるので、次の注意が必要である。
  - 1) 本剤投与前に水痘又は麻疹の既往や予防接種の有無を確認すること。
  - 2) 水痘又は麻疹の既往のない患者においては、水痘又は麻疹への感染を極力防ぐよう常に十分な配慮と観察を行うこと。感染が疑われる場合や感染した場合には、直ちに受診するよう指導し、適切な処置を講ずること。
  - 3) 水痘又は麻疹の既往や予防接種を受けたことがある患者であっても、本剤投与中は、水痘又は麻疹を発症する可能性があるため留意すること。
  - 4) 投与中は副作用の出現に対し、常に十分な配慮と観察を行い、また、患者をストレスから避けるようにし、事故、手術等の場合には増量するなど適切な処置を行うこと。

- 5) 連用後、投与を急に中止すると、ときに**発熱、頭痛、食欲不振、脱力感、筋肉痛、関節痛、ショック等の離脱症状**があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、徐々に減量するなど慎重に行うこと。離脱症状があらわれた場合には、直ちに再投与又は増量すること。
- (3) 副腎皮質ホルモン剤を投与されたB型肝炎ウイルスキャリアの患者において、B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎があらわれることがある。本剤の投与期間中及び投与終了後は継続して肝機能検査値や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルス増殖の徴候や症状の発現に注意すること。異常が認められた場合には、本剤の減量を考慮し、抗ウイルス剤を投与するなど適切な処置を行うこと。なお、投与開始前にHBs抗原陰性の患者において、B型肝炎ウイルスによる肝炎を発症した症例が報告されている。

### 3. 相互作用

※ベタメタゾンは、主としてCYP3A4で代謝される。

※※(1) **併用禁忌** (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
デスモプレシン 酢酸塩水和物 ミニリンメル ト(男性にお ける夜間多尿 による夜間頻 尿)	低ナトリウム血症が発 現するおそれがある。	機序不明。

(2) **併用注意** (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 アルコール MAO阻害剤 抗コリン作用を 有する薬剤	相互に作用を増強する ことがあるので、併用 する場合は減量するな ど慎重に投与すること。	中枢神経抑制剤、アル コール：d-クロル フェニラミンマレイ ン酸塩の中枢抑制作 用により、作用が増 強される。 MAO阻害剤：d-クロ ルフェニラミンマレ イン酸塩の解毒機構 に干渉し、作用を遷 延化(増強)する。
ドロキシドパ ノルアドレナリ ン	併用により血圧の異常 上昇を来すおそれがある。	d-クロルフェニラミ ンマレイン酸塩がヒ スタミンによる毛細 血管拡張を抑制する。
バルビツール酸 誘導体 フェノバルビ タル フェントイン リファンピシン エフェドリン	副腎皮質ホルモン剤の 作用が減弱することが 報告されているので、 併用する場合には用量 について注意すること。	バルビツール酸誘導 体、フェントイン、 リファンピシンは P-450を誘導し、副 腎皮質ホルモン剤の 代謝が促進される。
サリチル酸誘導 体 アスピリン アスピリンダ イアルミネー ト サザピリン	併用時に副腎皮質ホル モン剤を減量すると、 血清中のサリチル酸濃 度が上昇し、サリチル 酸中毒を起こすことが 報告されているので、 併用する場合には用量 について注意すること。	副腎皮質ホルモン剤 は、サリチル酸誘導 体の腎排泄と肝代謝 を促進し、血清中の サリチル酸誘導体の 濃度を低下させる作 用を持っているので 減量するとその血中 濃度が上昇する。
抗凝血剤 ワルファリン カリウム	副腎皮質ホルモン剤が、 抗凝血剤の作用を減弱 させることが報告され ているので、併用する 場合には用量について 注意すること。	副腎皮質ホルモン剤 は血液凝固促進作用 がある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
経口糖尿病用剤 アセトヘキサ ミド インスリン製剤	副腎皮質ホルモン剤が 経口糖尿病用剤、イン スリン製剤の作用を減 弱させることが報告さ れているので、併用す る場合には用量につい て注意するとともに、 血糖値その他患者の状 況を十分観察しながら 投与すること。	副腎皮質ホルモン剤 は、肝臓での糖新生 を促進し、末梢組織 での糖利用を阻害す ることによる血糖上 昇作用がある。
利尿剤(カリウ ム保持性利尿剤 を除く) トリクロルメ チアジド アセタゾラミ ド フロセミド	副腎皮質ホルモン剤と の併用により低カリウ ム血症があらわれる場 合があるので、併用す る場合には用量につい て注意すること。カリ ウム排泄型利尿剤との 併用時には血清カリウ ム濃度と心機能のモニ タリングが推奨される。	副腎皮質ホルモン剤 は、尿管でのカリウ ム排泄促進作用があ る。
ソマトロピン	併用により、ソマトロ ピンの効果が減弱する ことがある。	副腎皮質ホルモン剤 がソマトロピンの効 果を減弱させる。機 序不明。
シクロスポリン	シクロスポリンの血中 濃度が上昇するとの報 告があるので、併用す る場合には用量につい て注意すること。	本剤はシクロスポリン の代謝を阻害する。
非脱分極性筋弛 緩剤 パンクロニウ ム臭化物 ベクロニウム 臭化物	筋弛緩作用が減弱又は 増強するとの報告があ るので、併用する場 合には用量について注 意すること。	機序不明。
リトドリン塩酸 塩	ベタメタゾンの注射剤 との併用により肺水腫 があらわれたとの報告 がある。	体内の水分貯留傾向 が促進される。
※ エリスロマイシ ン	ベタメタゾンの作用が 増強されるとの報告が あるので、併用する場 合には本剤の用量に注 意すること。	エリスロマイシンの CYP3A4に対する阻 害作用により、ベタ メタゾンの代謝が抑 制される。

### 4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) **重大な副作用** (頻度不明)

- 誘発感染症、感染症の増悪** 誘発感染症、感染症の増悪があらわれることがある。また、B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
- 続発性副腎皮質機能不全、糖尿病、急性副腎不全** 続発性副腎皮質機能不全、糖尿病、また、急性副腎不全があらわれることがあるので、検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- 消化性潰瘍、膵炎** 膵炎、また、胃潰瘍等の消化性潰瘍があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- 精神変調、うつ状態、痙攣、錯乱** うつ状態、痙攣、錯乱、また、精神変調があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常があらわれた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- 骨粗鬆症、ミオパシー、大腿骨及び上腕骨等の骨頭無菌性壊死** 大腿骨及び上腕骨等の骨頭無菌性壊死、また、骨粗鬆症、ミオパシーがあらわれることがあるので、検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- 緑内障、後嚢白内障** 連用により眼圧亢進、緑内障、後嚢白内障を来すことがあるので、定期的に検査をすることが望ましい。

- 7) **血栓症** 血栓症があらわれることがあるので、検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- 8) **再生不良性貧血、無顆粒球症** クロルフェニラミン製剤では再生不良性貧血、無顆粒球症があらわれることがあるので、血液検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止すること。
- 9) **幼児・小児の発育抑制** (「小児等への投与」の項参照)

(2) **その他の副作用**

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、光線過敏症等
精神神経系	鎮静、神経過敏、焦燥感、多幸症、複視、頭痛、めまい、耳鳴、前庭障害、情緒不安、振戦、感覚異常、ヒステリー、神経炎、協調異常、不眠、眠気、頭重感
消化器	口渇、胸やけ、腹部膨満感、食欲不振、便秘、腹痛、悪心・嘔吐、食欲亢進、下痢等
泌尿器	頻尿、排尿困難、尿閉、ステロイド腎症等
循環器 <sup>注2)</sup>	低血圧、心悸亢進、頻脈、期外収縮
呼吸器	鼻及び気道の乾燥、気管分泌液の粘性化、喘鳴、鼻閉
血液	溶血性貧血、白血球増多、血小板減少
肝臓	肝機能障害[AST (GOT)・ALT (GPT)・AL-Pの上昇等]
内分泌	月経異常、糖尿等
筋・骨格	筋肉痛、関節痛等
脂質・蛋白質代謝	満月様顔貌、野牛肩、窒素負平衡、脂肪肝等
体液・電解質 <sup>注2)</sup>	浮腫、低カリウム性アルカローシス、血圧上昇等
眼	中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害、眼球突出等
皮膚	多毛、脱毛、痤瘡、色素沈着、皮下溢血、紫斑、線条、そう痒感、発汗異常、顔面紅斑、創傷治癒障害、皮膚菲薄化・脆弱化、脂肪織炎
その他	発熱、疲労感、精子数及びその運動性の増減、胸痛、倦怠感、体重増加

注1) 症状があらわれた場合には、投与を中止すること。  
 注2) 症状があらわれた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。

5. **高齢者への投与**

高齢者に長期投与した場合、感染症の誘発、糖尿病、骨粗鬆症、高血圧症、後囊白内障、緑内障等の副作用があらわれやすいので、慎重に投与すること。

6. **妊婦、産婦、授乳婦等への投与**

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[動物実験(マウス)で催奇形作用が報告されており、また、新生仔に副腎不全を起こすことがある]
- (2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。[母乳中へ移行することがある]

7. **小児等への投与**

- (1) 幼児・小児の発育抑制があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- (2) 長期投与した場合、頭蓋内圧亢進症状があらわれることがある。

8. **適用上の注意**

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

9. **その他の注意**

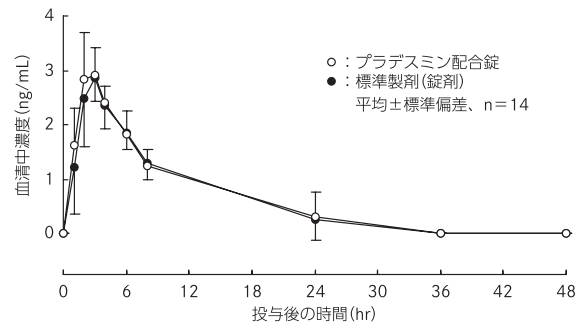
- (1) 副腎皮質ホルモン剤を投与中の患者にワクチン(種痘等)を接種して神経障害、抗体反応の欠如が起きたとの報告がある。
- (2) 免疫機能が抑制されている可能性のある患者に対し本剤を投与する場合は、以下の点を患者に伝えること。
- 1) 水痘、麻疹等に感染する危険性があること。
  - 2) 感染した場合は医療機関を受診すること。

【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験<sup>1)</sup>

プラデスミン配合錠と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ2錠(ベタメタゾンとして0.5mg、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩として4mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血清中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

(1) ベタメタゾン

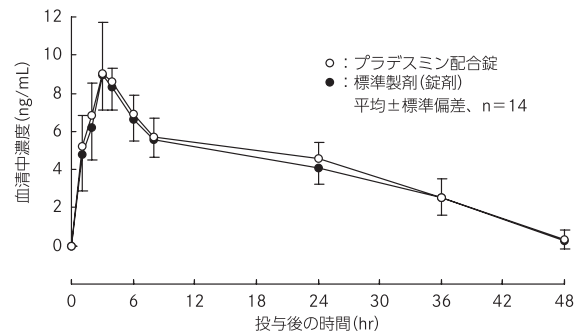


薬物動態パラメータ (平均±標準偏差、n=14)

	投与量 (mg)	AUC <sub>0-48</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
プラデスミン配合錠	0.5	30.3±6.9	3.3±0.5	2.4±0.5	9.7±9.0
標準製剤(錠剤)	0.5	29.2±4.8	3.2±0.4	2.6±0.6	9.0±6.5

血清中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(2) d-クロルフェニラミンマレイン酸塩



薬物動態パラメータ (平均±標準偏差、n=14)

	投与量 (mg)	AUC <sub>0-48</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
プラデスミン配合錠	4	195.9±27.9	10.0±1.8	3.3±0.6	19.0±11.2
標準製剤(錠剤)	4	184.6±34.6	9.4±1.5	3.1±0.4	21.2±9.4

血清中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出性<sup>2)</sup>

プラデスミン配合錠の溶出性は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた規格に適合していることが確認されている。

【薬効薬理】<sup>3)</sup>

プラデスミン配合錠は、合成副腎皮質ホルモンのベタメタゾン及び抗ヒスタミン薬(H<sub>1</sub>受容体拮抗薬)のd-クロルフェニラミンマレイン酸塩の配合剤である。

1. ベタメタゾン

糖質コルチコイドが細胞質あるいは核内に存在する受容体に結合すると、核内に移行して特定の遺伝子の転写を開始あるいは阻害する。転写が開始されて合成される代表的なタンパク質はリポコルチン-1であるが、これはホスホリパーゼA<sub>2</sub>を阻害して結果的にプロスタグランジン類、トロンボキサン類、ロイコトリエン類などの起炎物質の産生を低下させる。

## 2. d-クロルフェニラミンマレイン酸塩

ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体遮断薬。H<sub>1</sub>受容体を介するヒスタミンによるアレルギー性反応(毛細血管の拡張と透過性亢進、知覚神経終末刺激によるそう痒など)を抑制する。クロルフェニラミンのH<sub>1</sub>受容体遮断作用の殆どはd体によるので、dl体に比して約2倍の効力を有する。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

#### ●ベタメタゾン

一般名：ベタメタゾン (Betamethasone)

化学名：9-Fluoro-11 $\beta$ ,17,21-trihydroxy-16 $\beta$ -methylpregna-1,4-diene-3,20-dione

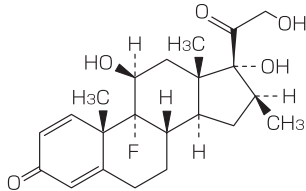
分子式：C<sub>22</sub>H<sub>29</sub>FO<sub>5</sub>

分子量：392.46

融点：約240℃ (分解)

性状：白色～微黄白色の結晶性の粉末である。メタノール、エタノール(95)又はアセトンにやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。結晶多形が認められる。

構造式：



#### ●d-クロルフェニラミンマレイン酸塩

一般名：d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 (d-Chlorpheniramine Maleate)

化学名：(3S)-3-(4-Chlorophenyl)-N,N-dimethyl-3-pyridin-2-ylpropylamine monomaleate

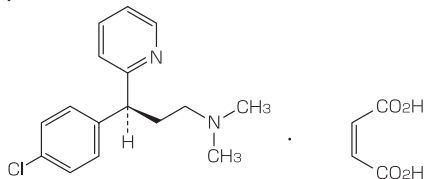
分子式：C<sub>16</sub>H<sub>19</sub>ClN<sub>2</sub> · C<sub>4</sub>H<sub>4</sub>O<sub>4</sub>

分子量：390.86

融点：111～115℃

性状：白色の結晶性の粉末である。水、メタノール又は酢酸(100)に極めて溶けやすく、N,N-ジメチルホルムアミド又はエタノール(99.5)に溶けやすい。希塩酸に溶ける。

構造式：



### 【取扱い上の注意】<sup>4)</sup>

安定性試験結果の概要

長期保存試験(25℃、3年3ヵ月)の結果、プラデスミン配合錠は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

### 【包装】

プラデスミン配合錠

PTP包装：100錠(10錠×10)、1,200錠(10錠×120)

### 【主要文献】

- 1) 武田テバファーマ(株)社内資料(生物学的同等性試験)
- 2) 武田テバファーマ(株)社内資料(溶出試験)
- ※3) 第十七改正日本薬局方解説書
- 4) 武田テバファーマ(株)社内資料(安定性試験)

### 【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

武田テバファーマ株式会社 武田テバDIセンター

〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

TEL 0120-923-093

受付時間 9:00～17:30(土日祝日・弊社休業日を除く)

販売

**武田薬品工業株式会社**  
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

製造販売元

**武田テバファーマ株式会社**  
名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

PQM63903

PQM86703

03